

(5) 柳町部会

ア 人口等

| | |
|-------------|----------|
| 人口 | 2,096 人 |
| 65 歳以上人口 | 382 人 |
| 高齢化率 | 18.2 % |
| 要支援・要介護認定率 | 20.4 % |
| 15 歳未満子ども人口 | 213 人 |
| 子ども比率 | 10.2 % |
| 世帯数 | 1,256 世帯 |

(平成 28 年 1 月現在)

| | |
|---------|--------|
| 自治会加入世帯 | 800 世帯 |
|---------|--------|

(平成 28 年 4 月現在)



※川崎市の統計情報、住民組織調査票
 川崎市要支援・要介護者数より

イ 自治会の取組例

- 防犯、防火パトロール
- 老人クラブ、友愛チーム活動
- 衣類のリフォームの会
- 母親クラブ
- 子ども会流しソーメン

ウ 地域で実施している取組例(隣接地域含む)

- 会食、配食サービス
- 毎月の資源回収
- 交通安全週間
- 運動会



地域活動の様子(自治会 流しソーメン)

エ 部会構成員

| | 平成 27 年度 | 平成 28 年度 |
|-------------------------|-------------|-------------|
| 自治会 | 9 名 | 8 名 |
| 民生委員児童委員 | 3 名 | 3 名 |
| 老人クラブ | 1 名 | 1 名 |
| 幸区社会福祉協議会 地域課職員 | 1 名 | 1 名 |
| 幸風苑 地域包括支援センター 職員 | 2 名 | 2 名 |
| 幸区役所 | 3 名 | 3 名 |
| 計 | 19 名 | 18 名 |



部会の様子

オ 地域課題(抜粋)

| 身近な地域課題 困っていること | 地域でできること | 行政の役割 |
|--|---|--|
| 【道路交通環境】 事故多発交差点（尻手、南幸町）の改善。 小学校の通学路にグリーンラインが未設置。 | ・危険個所交差点の構造を見直す。 | ○事故の原因を分析し、安全性向上に向けた交差点改良を検討する。 ☆スクールゾーン内で歩道が分離されていない道路の路側帯等をカラー化する取組を推進。 |
| 【地域の防犯力】 街灯が少なく、暗い場所があり、防犯上心配だという声がある。 | ・防犯パトロールの実施や街灯の設置。 ・19組（柳町の一部地域）や裏通りの家では、玄関等を点灯し夜間の暗さを補う。 ・町内会独自で作成しているブロック別構成マップ（たすけあいマップ）を活用する。 | ○災害に対する備えや共助による地域防災対策等、区民の防災意識を高めるため、リーフレットやホームページによる周知、総合防災訓練や防災フェア等を活用し、継続的に普及啓発を実施する。 |
| 【高齢者・障害者のサポート】 日頃見守りをしている商店・コンビニが少なく、恒常的な見守りが難しい。 | ・ゴミ出しや買い物、朝夕の花の水やり等で声かけする。 | ○当モデル事業を進め、地域住民や地域包括支援センター、障害者相談支援センター、介護支援専門員等と連携し、誰もが住み慣れた地域で生活を継続できる取組を実施。 |
| 【地域コミュニティ活動】 気軽に使える場所、グラウンド、体育館、公園等の施設がないため活動が制限される。 | ・地元企業への場所の提供を働きかける。 | ○区役所が管理するグラウンドや体育館等について、必要な情報提供を行い、適正な利用調整等を実施する。 ○公園管理運営協議会等地域住民と連携し、公園の有効活用を推進する。 |

カ モデル事業を実施した成果・感想

- ・地域に在住している高齢者や一人暮らしの方の生活を知るきっかけとなった。
- ・外に出るだけでなく、外に出て人と話をしたり、人と交流を持つことが大切である。
- ・対象者の線引きが難しいが、介護保険や生活保護利用者なども「きになるシート」にあげることで、地域で見かけた時に気にかけることができる。必要に応じて支援機関へ連絡する際は、より詳細な状況を伝えることができる。
- ・二年目となり、部会員が、お互いに密にコミュニケーションを図ることで、無理せず対象者にも負担なく、自然体で見守ることができて楽になった。
- ・既存の住宅地図を活用したみまもりマップを作成し、メンテナンスを続けながら、部会員全員が対象者を見守るようにすることで、地域全体を把握し、みまもり活動を実施できた。
- ・民生委員だけが高齢者を見守るのは大変であるため、若い世代も地域活動に取り込み、力を合わせて地域全体で見守っていきたい。